

## 原稿作成要領

2003年4月26日紀要委員会決定

2004年2月23日改定，2006年8月7日改定

2007年9月21日改定，2013年5月22日改定

2014年8月18日改定，2016年7月6日改定

2018年5月1日訂正

### 1. 論文の使用言語

和文または英文とする。

### 2. 原稿の書き方

#### (1) 原稿の書式と投稿

原稿は所定の鋳型（テンプレート）にて作成する。

#### (2) 原稿の長さ

原稿の長さは原則として図や表を含め、刷り上がり10ページ以内とする。ただし、本委員会にて承認された場合はこの限りではない。

#### (3) 表題等

①表題，ランニングタイトル，著者，所属，連絡先は，和文原稿，英文原稿にかかわらず，和文および英文でそれぞれ記述する。

②ランニングタイトルは，語間空白部を含めて和文原稿では40文字以内，英文原稿では80文字以内とする。

#### (4) 要旨

①和文原稿，英文原稿にかかわらず，本文の前に300語以内の英文要旨（Abstract），文献の後に500文字以内の和文要旨をそれぞれつける。

②キーワード3～5個を和文と英文で書く。

#### (5) 本文

①句読点は「，」（カンマ），「.」（ピリオド）とする。

②術語などの文字指定は各専門分野の慣例にしたがい，また，単位はSI単位を尊重する。

③数式等における添字（上付き，下付き）などは明瞭に識別できるように書くこと。変数にはイタリック体を使用する。

④本文中に文献を引用するときは著者の姓と年号で表す。著者が1名のときは Orido（1985），折戸（1985），（Orido，1985），（折戸，1985）などとし，2名のときはOrido and Miho（1986），（折戸・三保，1986）など，3名以上のときは Orido et al.（1987），（折戸ほか，1987）などのように書く。なお，引用する文献が複数の場合は（Orido，1986；Miho，1987），（折戸，1986；三保，1987）などのようにセミコロン（；）でつなげて記述する。

⑤註は該当個所の右肩に「1）」のように指定し、本文と文献のあいだにまとめて「註1）」のように対応する番号をつけて書く。

⑥英文原稿と英文要旨は、事前に英語を専門とする者による英文の校閲を受けること。

#### (6) 図および表

①図はカラーでも白黒でもよいが、明瞭に描かれたものを使用すること（写真も同様）。刷り上がりの大きさは左右が14cmか7cmのいずれかになるので、図の大きさには留意する。図表中の文字は原則として英字とするが、文字、数字、符号などは刷り上がり時に小さくなりすぎないように、フォントは9ポイントの大きさとする。動植物の図などは図中にスケールを記入しておくことが望ましい。

②本文中で図表を引用するときは、Fig.1, Figs.1 and 2, Figs.1~3, Table 1, Tables 1 and 2, Tables 1~3のように書く。

③和文原稿，英文原稿にかかわらず，図表の説明文は英文とする。

#### (7) 文献

①文献は文末に著者の姓のアルファベット順に並べる。番号は付けない。

②雑誌の場合は、著者名（筆頭著者は姓を先に）、西暦年（カッコでかこむ）、表題、雑誌名、巻（号）、最初のページー最終ページの順に記す。

③単行本の場合は、著者名、西暦年（カッコでかこむ）、書名、出版社名、所在地、総ページ数の順とする。

④雑誌名、書名は頭文字を大文字で書く。

⑤雑誌名の省略は、原則としてButterworths発行のWorld List of Scientific Periodicalsによる。これに記載のないものは慣例による。

⑥英文原稿に和文の文献を引用するときは、文献の記載にあたり（in Japanese with English abstract）、（in Japanese）などと付記する。英訳のない論文表題は投稿者が英訳して[]でかこむ。

⑦オンライン版でDOI（デジタルオブジェクト識別子）のない場合は、著者名、表題名、雑誌名、巻（号）、頁、URLの順に記す。

⑧オンライン版でDOIのある場合は、著者名、表題名、雑誌名、巻（号）、頁、DOI番号の順に記す。

⑨逐次的な更新が前提となっているコンテンツを引用する場合は出典URLのあとにカッコで括って検索日を記載する。

#### (掲載例)

##### a) 雑誌

上久保 正 (1958) : ビタミンB12の微生物学的定量における抽出法についての2,3の知見. ビタミン, 14(1), 33-36.

Kanawa, A.,M.Ichikawa and T.Imai (1986) : [On the data processing of daily mean value of oceanographic data.] Bull.Coastal Oceanogr.,28, 179-187(in Japanese).

Kurokawa,T.(2000) : New Ocean and atmosphere.Umino Kenkyu,8,54-63 (in Japanese with English abstract and figure captions) .

- Menzel, D.W. and J.P. Spash(1964):Occurrence of vitamin B12 in the Sargasso Sea.Limnol.Oceanogr.,7(2),151-154.
- 丹羽 晃・松村 宏・坪井 匡 (1979) : スポーツ参加の動機に関する要因の分析, 体育学研究, 27(1) ,38-44.
- b) 単行本
- Hilditch, T.P. (1956) : The Chemical Constitution of Natural Fats.Wiley, New York, 451pp.
- Kriss, A.E.(1963) : Marine Micro- Biology (Translated from Russian by Shewan, J.M. and Z.Kabata) . Oliver and Boyd,Edinburgh,400pp.
- 松原利夫 (1955) : 海上衝突予防.石崎書店, 東京, 550pp.
- 松橋通生 (1976) : 基礎生化学実験法 (阿南功一・紺野邦夫・田村善蔵・松橋通生・松本重一郎編). 6, 丸善, 東京, 600pp.
- Rosen, D.E.(1973) : Interrelationships of higher euteleostean fishes.391-513, in Greenwood,P.H.,R.S.Miles and C.P.Patterson eds.,Interrelationships of Fishes. Academic Press, London.
- Wilkinson,J.H.(1969):イソ酵素 (守屋 寛・吉田光孝・藤本幸男訳) .丸善,東京,350pp.
- c) 電子ジャーナル
- Tsuda A.,H. Saito and H. Kasai(2014): Vertical distributions of large ontogenetically migrating copepods in the Oyashio region during their growing season. J. Oceanogr., 70 (2),123-132, DOI : 10.1007/s10872-013-0214-4.
- d) 逐次的な更新が行われるコンテンツの引用
- 海上保安庁 海洋情報部 (2014) : 海域火山データベース, 小笠原諸島西ノ島活動写真, <http://www1.kaiho.mlit.go.jp/GIJUTSUKOKUSAI/kaiikiDB/kaiyo18-2.htm> (参照日2014年7月3日)

以上